

の年取ったマダムは、「キサコはイブモンタンを捨てたの？ 彼は、いつまでもあそこに居るのに。」と言った。今思うと、淡い、ぼんやりした甘さに包まれたような感じのパリの一人暮らしである。

(17回生)

## 職 場 よ り

川 島 美 保

卒業してからもう1年8ヶ月たちました。こんなに長く勤めるつもりはなかったのに、月日のたつのは本当に早いものです。

私が入社したのは銀行、それも調査部というところですよ。銀行というと一般に預金の出入を行なっている窓口を思い浮かべますが、私も最初そうでした。銀行の中の仕事はどのようなことをしているのか全然知らず、まして調査部というものが存在することさえも知らずに入社したのですから、今考えるとずい分無責任な話です。

さて私の入った調査部というところですが、これは大別して2つの部門にわかれます。1つは経済全体の動向を調べる経済調査課、もう1つは産業界個々の動向についての企業調査課です(他の銀行によっては部の組織になっています)。私は前者の経済調査課に配属となりましたが、地理とは全然関係のない経済で、しかも担当が金融と決まり初めはどうなることかと心配ものでした。しかし、門前の小僧習わぬ経を読むのとえにもあるように月日がたつに従って見よう見まねがだんだん本物らしくなっていくものです。今では新聞を見ても一番最初に経済関係の記事が気になりだすくらいになり、経済が嫌いであった学生時代とは大分違うものだと自分自身感心しています。まあ女性の仕事といっても半分位は清書とか計算とかいう雑用が占めているのが現状ですが。

私達女性でやった大きな仕事としては調査月報を2回出したということがあります。調査月報というのは銀行の調査部で毎月発行しているもので、経済界では高い評価のものとなっています。毎月交替で経済動向などをテーマとして発表しており、調査部の主な仕事の1つです。また経済見通しの作業をすることも大切な仕事です。このように調査部にいる人達はふつう銀行員といわれるイメージより、まさにエコノミストという感じです。そんな中で女性の戦力化という部長の考えから私と一緒に入行した5人と古くからいる人の計6人が分担して月報にとり組んだわけで、昨年の第1回目は

「婦人労働の現状と将来」そして今年が「OLの選択」という結果になりました。新聞や雑誌などにこのことがとりあげられ盛んに大作のようにかかれてしまいました。一番大変だったのは私達の書いたものを取りまとめた人ではないかと思えます。女性が月報を書いたということは今までなかったことなので、とても意義のあることです。しかし、6人が分担してそれぞれの担当をかいたためばらばらになった文の調子を統一するのに一番の苦勞があったのではないでしょう。

女性の職場としてはよい環境に属するのではないかと思えます。この中で仕事ができたとしたこととはとても好運なこと、これからも女性がどんどんこんな職場に進出してほしいと思えます。今まで勤めてきて、現金を扱っている銀行の内部の仕事というものがわかり、いろいろな職場の存在することがわかっただけでも有意義なことだったと思っています。物事は表だけではわからないものだと感じているこのごろです。

(20回生)

## お 知 ら せ

### 1 投稿規定

- お茶の水女子大学地理学科卒業生及び旧、現職員は本誌に投稿することができます。
- 用紙は横書き400字詰原稿用紙とします。
- 投稿の範囲、内容は特に規定しませんが、研究論文・調査報告・近況報告・ずい筆などお願いします。
- 論文は15～30枚、報告・ずい筆は3枚程度とします。
- じめきりは、9月末日です。
- 原稿送付先

〒112 東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学地理学教室内 お茶の水地理編集委員会  
TEL 03(943)3151 内線263

- 2 住所・勤務先の変更、改姓の場合も上記宛御連絡下さい。
- 3 クラス会・同窓会などの様子もお知らせ下さい。
- 4 「お茶の水地理」は御希望の方に実費でお頒け致します。このたび振替口座を開設しましたので御利用下さい。

振替番号 東京 1848番